

第四回 清瀬市の新しい学校施設づくりワークショップ 新しい学校施設の夢を語り合おう



ワークショップの概要

日 時：2023年7月22日（土）10:00～12:00

会 場：清瀬市役所 研修室

テーマ：「学校施設の地域利用について話し合おう」

内 容：第4回のワークショップは学校施設の地域利用（地域開放と避難所）をテーマとし、使いたい施設、使いやすくなる工夫や配慮、学校と地域の関係づくりで大切にしたいことについて話し合っていました。当日は20名の参加があり、地域が利用する施設のあり方だけではなく、施設全般の意見や建設後の運営のあり方まで多くの意見をいただきました。ふせんを通して得られた主な意見をまとめます。

チーム 郷土愛

「みんなが楽しい学校」



<使いたい施設>

○地域開放 特別教室

- ・子育て支援の居場所として特別教室
- ・それぞれの楽器が使えるスペース
- ・自治会や生涯学習（地域活動）

図書館

- ・休みの時でも地域みんなで安心して使える図書館

スポーツ施設/外部空間

- ・体育館で運動器具を使って世代問わず利用できる施設
- ・テニスコート、プール
- ・消防関連団体の外空間

その他

- ・親子食堂 対応できる部屋
- ・高齢者の休憩場所

<使える工夫や配慮>

○地域開放

- ・誰でも利用できるという点の防犯・安全対策 事前ネット予約等
- ・防犯として 顔や指紋認証システム
- ・防犯として スマホアプリの活用??
- ・安全対策としてNPO法人など、管理運営を第三者に

○避難所

- ・学校に入った時に よくわかる教室の案内表示
- ・避難所として使用できる教室の案内プレート 一目でわかる

<学校と地域の関係づくり>

○地域開放

- ・地域懇談会の実施
- ・清瀬の伝統文化を地域の方と学べる場
- ・伝承スタジオ
- ・NPO法人や消防署など講師を招く
- ・郷土愛を育む地域づくりの教育 子どもも大人も

○避難所

- ・運営会議への参加



チーム 子どもが一番

「子どもが一番」



<使いたい施設>

○地域開放 図書・学習

- ・日常的に使える図書館
- ・休日の学習の場所（長期休暇時）

居場所

- ・子どもが遊んでいる間に親はお茶したり、別のことができる場所
- ・休憩できる、ふらっと入れる
- ・みんなで⇄一人で 両方ほしい

プール

- ・市内の小・中学校と市民のための市の室内プールが1つあってほしい。それはこの新校リニューアルが最も適していると思う。

学童

- ・子どもが学校を出ないで学童に行ける

発表

- ・舞台発表も可能な体育館

○避難所

- ・安全な建物 建築的にも心理的にも
- ・プライバシーに配慮された避難所

<使える工夫や配慮>

○地域開放 つかいわけ

- ・子どもと大人、使い方や内容によってすみわけができるように

予約・申込

- ・予約システムが複雑だとめんどくさい
- ・団体ごとに予約や利用の調整ができる
- ・市の公共施設は携帯電話で予約できる

雰囲気/デザイン

- ・公共っぽさがありすぎない方が子育て中のリフレッシュになる
- ・公共感をできる限り抑える

コミュニティ

- ・多くの人と関わりたい。

セキュリティ

- ・入口は別に
- ・人がたくさん →たくさんの目で安心 →でも不審者も不安

<学校と地域の関係づくり>

○地域開放

- ・主役は「小学校の子供たち」の認識で。地域は2層まで（大人優先にしすぎない）

<施設全般・進め方など>

- ・仮の計画ができあがったらもう一度ワークショップを開いて市民の戸を聞いてほしい
- ・施設に入ってみる機会（見学会、投票所）

「気軽さとセキュリティ」

＜使いたい施設＞

○地域開放
図書館

- ・親子で使える
- ・パソコンが使える
- ・勉強スペースの確保
- ・大学生の利用

特別教室

- ・地域の人も使える音楽室
- ・親子で使える家庭科室
- ・楽器を使える場所

スポーツ施設・遊び場

- ・体育館 空調、更衣、トイレ
- ・グラウンドや体育館 道具が借りれる
- ・夜間もつかえるように照明ほしい
- ・幼児もあそべる遊具、遊具の充実

その他

- ・学童クラブの施設。調理？休息スペース
- ・自治会等が使える会議室



予約方法

- ・ICT活用
- ・ICT苦手な人も予約しやすい
- ・電子申請 HPなどからスマホ
- ・気軽に使いたい
- ・子どもも予約できる
- ・利用したいとき スマホとかで予約できる
- ・予約なしで使えるグラウンド
- ・特別教室のサポートを地域の人でできる

地域で見守る

- ・地域で子ども、学校を見守る 地域の中の学校という考えは良いが安全という考えから地域開放は考えたい

＜学校と地域の関係づくり＞

○地域開放（連携）

地域と交流/協働

- ・セーフティ教室は地域の人と一緒にやる
- ・関わりのある地域の人を増やせると良い
- ・学校と地域でイベントする
- ・主催者どうしの交流の場にする みんな知ってる
- ・福祉施設との交流
- ・イベント交流 日常的に
- ・学校を会場にすることで多世代交流 個室化を防ぐ
- ・地域の人が先生になる 学習の場
- ・授業支援

防犯/安全

- ・保護者つきそい隊、地域見守り隊
- ・地域の人が登下校の見守り

○避難所

- ・継続した運営をしたい
- ・校長先生がかわるたびに使い方を変えないでほしい

＜使える工夫や配慮＞

○地域開放

時間帯/エリア区分

- ・児童がいる時間帯に地域の人が入り出すことについては一考を要する
- ・エリア区分、施設
- ・市民が使える施設の出入口を決めるとか使える時間を決めるとか
- ・子どもの生活空間と地域の場所が自由に行き来できないようにする
- ・授業時間と地域利用を分ける

「教育活動③地域開放」

＜使える工夫や配慮＞

○地域開放

- ・大人が使ってよいという周知
- ・学校は教育をするところであり、社会性の土台を育成する場です。決して地域開放を優先すべきではありません。どこにでもある学校は公的施設を入れやすく集中させやすいでしょうが、疑問です。
- ・子どもは動き回ります。走ります。大声を出します。泣きます。学校中にあふれる子どもたちの姿に地域の人がおどろき余計な心配のあまり苦情をたくさんよせるようにならないかと心配します。
- ・小さい子と年寄は望む環境や施設がちがいます。うまく融合できるでしょうか。
- ・放課後の子どもの世話サービス
- ・お金かけ過ぎない
- ・トイレが多い方がよいです。子どもと大人が共有することでよごれや感染などが心配です。子どもの目線で管理してほしいです。
- ・ユニバーサルトイレ だれでもトイレ
- ・パスワードでセキュリティ（ドアとか）
- ・入口を分けて安全
- ・地域の目で見守り。
- ・学童に関して入口が学校と離れる。学童と学校の区切りをていねいに作る

○避難所

- ・避難所には必ず運営を考える。運営委員会を作ってほしいです。若い女性、子育て中の人、妊娠中の人、病気を抱えている人、いろんな人がいるのでその人たちの声をひろい上げ避難生活がスムーズにいくように。

＜学校と地域の関係づくり＞

○地域開放

- ・一番は現場の先生方 職員の意向を
- ・教員の地域の方との連携（教員は負担？）

＜施設全般＞

- ・校舎の向き 南向き これはステキ
- ・職員室から校庭が見える（安全性）
- ・給食室は小中と分け2つ作る
- ・教室 ロッカーひろく（1人のスペース）
- ・掲示板の工夫
- ・教室…オープンスペースではなく静かさ戸かべあり …等



＜使いたい施設＞

○地域開放

- ・乳幼児スペース（命のチカラプロジェクト）

図書館

- ・学校図書館で未就学児の絵本
- ・図書室 親子で利用できればいい。それ以外はムリ。広げなくてもよい。（セキュリティ面が心配なので）

特別教室

- ・図工室でDIY
- ・調理室を使わせてほしい。多世代交流の場として大切
- ・調理室等 市内の施設で調理できるところが減らされているので（セキュリティ面を十分配慮した上で）
- ・休日は音楽室で映画上演
- ・コンビニ カフェ

給食

- ・給食 売ってほしい

屋外環境

- ・自由に校庭を使用できる時間
- ・農園、花壇で地域住民と作業
- ・保護者こどもとの交流できる場所
- ・休日 校庭で子どもとキャンプ

小中連携

- ・小学生が中学の部活
- ・小→中への憧れ 中→小 面倒見

学び・仕事

- ・子どもにお金稼ぐ勉強！
- ・塾 駅までいくの危ないので
- ・子どもと一緒に学校へ出勤したい（テレワークスペース）

スポーツ

- ・体育館 市内に体育施設が少ないので、市民も活用できればと思う
- ・プール開放